



(写真:川瀬学芸員提供)

フィールドレポーター担当学芸員川瀬成吾

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2024 年度第 1 回フィールドレポーター交流会の報告

フィールドレポーター・スタッフ

新年度第 1 回の交流会はフィールドレポーターが年に一度琵琶湖博物館に集まって、前年度の調査結果と新年度の調査内容を報告し、当日参加して下さった方々と調査に参加しての感想や意見を交換して交流を深める会です。

2024 年 6 月 1 日博物館のセミナー室で、13 時 30 分～16 時半ごろまで、28 名の参加で開催しました。参加者は、フィールドレポーター、はしかけ、琵琶湖博物館学芸員、研究員とその他報道各社の方々でした。

報告したテーマは 2 件です。報告内容の概要紹介および交流会の様子を報告します。進行は川瀬成吾学芸員です。開会挨拶は楊平学芸員から頂きました。

1 件目の報告は 2023 年度第 1 回調査、「スクミリンゴガイとタニシの分布調査結果」です。調査担当した栲島昭紘さんが報告しました。報告内容はフィールドレポーターだより 2024 年度第 1 号（通巻 57 号）をご覧ください。コメントは菅原巧太郎学芸員から頂きました。

2 件目の報告は 2023 年度第 2 回調査、「近江のナレズシ県民大調査」、調査担当した前田雅子さんが報告しました。報告内容はフィールドレポーターだよりの 2024 年度第 2 号（通巻 58 号）をご覧ください。コメントは柏尾珠紀特別研究員から頂きました。

そして、最後に総括の挨拶を里口保文学芸員から頂きました。

各報告が終了した後、活発に質疑応答がなされました。そして残りの時間を自由に立ち話しながら会話が弾んでいました。

今回も熱心な報告と参加された皆さんとの質疑応答によりまして有意義な交流ができました。ご参加の皆さんありがとうございました、これからもフィールドレポーターの活動を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。



(写真：柁島昭紘提供)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

2024 年度第 1 回調査「生き物供養碑調査」に関連して、
勉強会 2 件を開催しました。

フィールドレポーター・スタッフ

「地域の神社奉納石造品を調べる」について

講師は米田実様（研究協力員・元甲賀市史編さん室長）です。

2024 年 4 月 20 日 琵琶湖博物館会議室で開催しました。調査に当たって取り組み方や調査場所での留意事項を勉強しました。

説明して頂いたなかで、主な項目だけを紹介します。

- ① まず、なぜ石造品なのか
- ② これまで調べられてきたこと
- ③ 地域の神社訪ねる。事前に調べておく事柄、現地で分かること。
- ④ 境内に配置された石造品を調べてみる。何を対象にするか、自分で基準を決めておく。全体像を把握、調べる順番を決める。場内の写真、建物の写真、資料の写真を撮る。目視で銘文を読み記録する、判読困難な部分も記録。光線具合を考慮して調べる。レフ板、懐中電灯、拓本の利用。風化などで読めない場合も少なくないが慣れてくると想像もつく。
- ⑤ 持ち帰り、資料を整理する。
- ⑥ どんなことが分かるのか、いつどんなものが、どの場所に奉納されたか、どこの誰が何のために奉納したか、種類別の特徴が見出せるか、流行があるか、石材は何か、どこの石

か、どこの石工の作か。

- ⑦ 注意すること、関係者に挨拶、無理をしない、安全第一。
- ⑧ 持ち物はノート、筆記用具 巻き尺、懐中電灯、柔らかいタワシ、古いポスター、スマホ、デジカメ、双眼鏡、拓本用具、歴史手帳（年号の照合のため）。



（写真；柁島昭紘提供）

「ひかり拓本」について

講師は奈良文化財研究所 上梶英之様です。

2024 年年 5 月 2 日 琵琶湖博物館会議室で開催しました。

ひかり拓本は非接触で非汚染、短時間で拓本が作れる方法で、これを考案されました。

碑文などに対して様々な角度から光を照射して撮影、複数の画像の影を合成するアプリを紹介されました。アプリは有料ですが、拓本と同じ程度に、石碑を汚すことなく読み取ってくれるという。その使い方を紹介されました。



（写真；柁島昭紘提供）

以上 2 件を勉強しました。これらの内容を、2024 年度第 1 回調査「生き物供養碑調査」に活用していくことになります。

関西テレビの取材を受けました

「スクミリンゴガイがテーマです。」

フィールドレポーター・スタッフ

スクミリンゴガイの件（フィールドレポーター調査）で、滋賀県南部に広がっているという現状を現場で取材できないかという依頼があって、川瀬学芸員と柁島昭紘さんが対応しました。

7月28日（日）9時過ぎから約1時間でした。場所は瀬田の唐橋西詰めです。

橋脚と川岸にスクミリンゴガイの卵塊が見つかったので、その場所で取材を受けました。フィールドレポーター交流会の発表の配布資料を使ってスクミリンゴガイの卵塊分布が広がっている現状を説明しました。そのあと、スクミリンゴガイの卵塊が見つかる橋脚や川の岸辺を観察しました。そして記者の方に、卵塊の駆除を、棒切れを使って経験して頂きました。

スクミリンゴガイ分布の最近の広がっている結果や、卵塊の様子を理解してもらったと思いました。

取材の内容は、7月29日（月） 関西テレビのニュースランナーという番組内、スクミリンゴガイに関する話題は 17 時 30 分頃から約 8 分間で、その中で放送されました。



（取材の様子、写真；川瀬学芸員提供。）

醒井養鱒場で供養碑の見学会

彼岸になっても暑さの収まる気配がない9月21日（土）、米原市上丹生にある滋賀県醒井養鱒場で、生き物供養碑の見学会を行いました。10月から始まる「生き物供養碑調査」を前に、調査のやり方を現地で体験してもらうこと、特に、“ひかり拓本”のやり方を実際にみんなでやってみようというのがねらいでした。



この日は能登地方に豪雨があった日で、米原市でも午前中に小雨がぱらついたのでありますが、午後の見学会の間は降らず、助かりました。

午後1時に養鱒場の正面入り口に集合。参加者は8名で、少しさびしい人数でしたが、始めに橋本学芸員から行程と内容について簡単な説明を受け、いよいよ出発です。

＊ひかり拓本：石などに刻まれた文字や紋様に斜めから光をあてて影を作り、それで浮かび上がった輪郭をスマートフォンで撮影して写しとる、新しく開発された拓本の方法。

小鮎塚では大苦戦

醒井溪谷の山際に、小鮎塚がありました。台座を含めると高さ2mほどの大きな石碑でした。調査票の記入の仕方もこの日の大事な学習内容でしたので、まずはスマホを使って、この地点の緯度経度を調べました。次に、碑の材質は「石」、形は「石の台座の上に石板」、大きさは「台座の高さ43cm、石板は高さ151cm」と、調査票の設問に沿って書き入れました。

さて、ここからが大変でした。昭和15年に建てられた古い石碑で、コケが文字を隠すように生えているため、読めない箇所があちこちにありました。予め施設の人に許可をもらっていたので、タワシでコケをこすり落とすとある程度は分かるようになりましたが、それでも篆刻の彫りが浅いのと、漢文崩しの文章のため、大半が理解不能です。

そこで、ひかり拓本の出番です。私には読めなくても、写真に撮って分かる人に読んでもらえばいいのです。三脚を立ててスマホを固定し、最初に正面から碑文全体を写真に撮りました。次に、1人が石板に対して斜め方向からライトをあて、1人がシャッターをきります。光の方向を斜め右や斜め上からなどいろいろ変えて、写真を数枚撮りました。それらの写真を合成すると、文字がクリアに浮かび上がるのがひかり拓本なのですが、何せ、初心者ばかりで扱いに不慣れなため、その場ではうまく合成できませんでした。調査担当の大河原さんが家でやってみるということで、終了になりました。

＊＊1人で撮影する時は自動シャッターを使います



なお、養鱒場のHP¹⁾によると、かつて琵琶湖の小アユと河川にいる大アユは種類が違ふと考えられていましたが、アユの体の大小は環境の違いが影響することがわかり、この発見と実験中に死んだアユを追悼する目的で碑が造られたそうです。碑文にはそれが詳しく書かれているはずです。

カエルの句碑

養鱒場の敷地の外、丹生川の川べりに「カエルの句碑」というのがあります。「生き物供養碑 topic map」²⁾に載っているので、見に行きました。

これも石材の大きなもので、表面には「皇思（きみおも）や 愛凍（めとう）されたる 大蛙」と彫られています。裏面にはビッシリと漢字が刻まれ、字自体は読みやすいですが、漢文調で内容を理解するのに四苦八苦でした。ここでは、中世史が専門の橋本学芸員が、読み取りに大活躍されました。

大意としては、大正六年に農商務省が農家の副業にするためアメリカから雌5匹、オス4匹の食用蛙を移植し、滋賀県水産試験場で養殖飼育したところ繁殖に成功し、冷凍食用蛙の主産地となった。この成功を讃え、主産地の醒井にこの石碑を建てたというものです。これは供養碑というよりも、顕彰碑の意味合いが強いように思いました。



醒井養鱒場で小鮎塚とカエルの句碑の見学会に参加しました。小鮎塚の碑文は照明を工夫してもらい見ました。また、デジカメでも写真を撮りました。碑の寸法が大きいので分割撮影の照明や自然光の利用に工夫が必要と感じました。

カエルの句碑は小鮎塚ほど大きくなかったので、自然光でデジカメでも撮影が出来ました。いずれも内容を理解するのは難しいと思いました。これから始まる生き物供養碑の調査するに当たっての難しさを実感しました。
(柊島さん)

ミーティングで

約2時間の石碑調査活動を終えて、大屋根のある休憩所で、活動の振り返りと調査開始までの準備などについて話し合いました。ひかり拓本は撮影時刻や場所の自然環境に左右される、つまり、明るい時間や明るい場所ではうまく影を作れないので難しい、という意見が出ました。

「今回の調査は供養碑を見つけるまでが大変」という意見に対しては、「今はネットの情報社会だから、ネットで調べるのがよい」という答えがありました。大学院で供養碑を研究していらっしゃる竹本さんに聞くと、「まずは歩いて探す。その際、地元の人に聞いてみる。その人が知らなければ、知っていそうな人がないか教えてもらう」という方法で調査されているとのこと。地道な方法ですが、フィールドレポーターと同じだなあと感じました。

初めてフィールドレポーターとして「生き物供養碑調査」に参加させていただきました。同行してくださった方々とコミュニケーションを取りながら、実際に供養碑を確認し調査を行いました。私は民俗学や生物学の専門知識を持たず、調査にも不慣れではありましたが、必要な知識を学びつつ、碑に刻まれた現代とは異なる文面から歴史的な世界観の違いを感じ取ることができました。人命より優先されない生き物のために供養碑を建てた方々の弔いの精神に、深く感銘を受けました。
(土屋さん)

1. 「小鮎塚」および「カエルの句碑」のひかり拓本を試みたが、文字として読めず、日中のため、斜光の影が上手く作れないことが原因と思われる。別な碑で夕刻、再トライする。
2. 調査票は、現場でのメモをベースに、種々の資料を参考にしながら完成させるのがよい。
3. カエルの句碑は、碑文から判断すると「供養碑」では無さそう。「疑わしきは記する」の例として、調査記録としては残すことにする。

(大河原さん)



場内の川にニジマスがたくさん泳いでいた。
虹色の婚姻色が見られる。



川に群生するバイカモ

小鮎塚やカエルの句碑に刻まれた文字は読みにくかったですが、気がついたことがあります。それは、わからないままじっと見ていたり考えたりしていると、ある時ふと閃いて読める場合もあるということです。人間の眼は三次元でとらえるので、二次元のカメラより優秀です。古い文体も日本語と思えば気が楽です。

私は、現地で撮った写真を家のパソコンで拡大して眺めると、解読しやすかったです。現地では作業がたくさんあってゆっくり読む時間がないので、“ワケわからん！”と思ってしまうのですが、家で見ると“こうかも？”“なあんだ！”が出てきます。

(前田さん)

(写真 6 枚は前田雅子様提供)

参考文献

- 1) 醒井養鱒場 場内施設(歌碑・塚など). <http://samegai.siga.jp/?cat=16>
- 2) 生き物供養碑 topic map. <http://tmap1.topicmaps-space.jp/psi/kuyo/tumulus-1001080>

三方五湖でセミの不思議をおもう

ファールおばさん

今年の夏は暑かったですね。そんな中で8月7日に、五色の湖と呼ばれる、福井県の三方五湖に初めて行ってきました。水深と塩分濃度が異なるために、それぞれの湖の色が微妙に異なるらしいのですが、最初に立ち寄った水月湖は、湖面の三分の一が緑色。おそらくアオコでしょう。水温が高くて異常発生しているのでしょうか、ちょっと残念な景観でした。

さて、本題のセミです。水月湖のほとりの展望所は急斜面の山が迫っている所でしたが、「ミーン ミン ミン ミーン」という、セミかどうかかわからないような、しわがれた声が聞こえていました。「これ、ミンミンゼミだよね」と言うと、友人も「う〜ん、おそらく」と自信のない様子。9月を過ぎるとセミが弱ってきて、このようなおじいさん声になるのを知っていますが、まだ8月初旬で元気なはずなのに…。この場所では、ミンミンゼミを中心に、クマゼミも少し鳴いていました。

そこからレインボーラインを登って、山頂公園へのリフト乗り場（標高330mくらい）に着きました。すると、そこは「カナ カナ カナ」の大合唱。お昼の2時半頃でしたが、ヒグラシが涼しげに鳴いていました。観光客のおじさんも「やっぱり山の上は涼しい」と言っていました。日傘は要るけれども、ホッとする涼しさでした。朝夕に鳴くヒグラシが3時前、しかも晴天の中で鳴いているのは、気温が低いからでしょうか。

さらにリフトに乗って山頂公園（標高395mくらい）へ。上に上るにつれてヒグラシの声が小さくなって、ツクツクボウシが賑やかになりました。山頂はツクツクボウシとヒグラシが8:2くらいで、ツクツクボウシの声が優勢です。アブラゼミが1匹飛んでいるのを見ましたが、ミンミンゼミの声は全くしませんでした。

小さなエリア内でも、標高が変わるとセミの種類が変わるのだなと思いました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ツバメの子育てを観察しました

大津市野遊人

大津市柳が崎の建物の一角にツバメの巣ができていたのを6月初めに見つけました。そしてその巣に2羽のツバメが出はいりしていました。

6月20日卵を産んで温め始めました。そして



6月20日卵を温め中



7月4日ヒナが4羽順調に育っています。その後しばらく観察ができずに、1週間後に巣を観察したらヒナが飛び立った後でした。巣は残っていますが、親ツバメと幼鳥も戻ってきませんでした。

また来年、楽しみにして待ちます。

(写真3枚；梶島昭紘提供)



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

お知らせ！

- ▶ フィールドレポーター交流会 2024 年度第 1 回は6月1日（土）にセミナー室で開催しました。多くの皆さんが参加していただき、ありがとうございました。
- ▶ フィールドレポーターの調査の今年度第 1 回調査は「生き物供養碑調査」でした。調査案と調査票を 10 月 1 9 日送付しました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

びわ博フェス 2024 参加報告

びわ博フェス 2024 が 11 月 16 日（土）、17 日（日）に開催されました。フィールドレポーターのイベントは「ひかり拓本をやってみよう、みえにくい字や絵を浮かびあがらせよう」でした。参加メンバーからの報告を以下に記します。

2024 年度、フィールドレポーターの活動として、「生き物供養碑」を調査します。

生き物供養碑には、それを建立するに至った「人々と生き物の関わりの歴史や物語」がありますが、年が経つにつれ、あるいは世代が交代するにつれ、碑の存在が忘れ去られ、その建立に関わった人々の思いの継承が途絶えてしまう可能性があります。このため、フィールドレポーターでは、県内にある生き物供養碑の建立経緯などを調査し、人々と生き物の関わりの記録として整理し、残しておきたいと考えています。

碑には、碑文として、名称や、建立の由来、建立者、建立年などが刻まれていることが多く、その建立経緯の一端を知ることができますので、写真撮影などによって、それらを記録として留めおくことが行われます。

ただ、長い年月風雨にさらされたことによる表面の風化で、肉眼や写真では碑文の文字が読みづらかったりします。この場合、碑文を読み取る方法としては、墨を用いて拓本を取ることや、斜めに光を当てて影を作り、その影を読み取るなどします。しかし、前者は、墨で貴

図 1：四方向から光を当てた時のそれぞれの影



重な対象物を汚したりする懸念もありますし、後者は光を当てる角度によって影の形が変わり、文字として上手く読み切れない場合があります。

これらの課題を解決するため、奈良文化財研究所の上栢英之研究員らによって開発されたのが、「ひかり拓本」という手法です。これは、いろいろな角度から光を当て、得られた複数の影を重ね合わせ、文字の輪郭を浮かび上がらせようとする技術です。

この技術は、携帯電話用のアプリとして公開（有料）されております。

図2：4方向からの影を合成して“拓本”



今回のびわ博フェス 2024 のワークショップでは、“みえにくい字や絵を浮かびあがらせてみよう”と言うサブテーマで、この「ひかり拓本」手法の概要、実際に撮影された碑文の事例をスライドで紹介すると共に、そのアプリを用いて、ひかり拓本の実際を体験頂きました。

体験は、デモンストレーションとして作成したレンガ状の焼物を用い、ひかり拓本アプリで撮影しました。

添付写真はひかり拓本手法の紹介事例：大津市瀬田龍王宮にある「龍王秀郷」碑

記：大河原秀康（フィールドレポーター・スタッフ）

「こすりだし」で乾(かん)拓(たく)体験

“ひかり拓本”がメインのワークショップですが、びわ博フェスに来られる一般の方に拓本を身近に感じてもらおうと、凸凹したものの上に薄い紙をのせて鉛筆やクレパスなどで擦り取る“乾拓(かんたく)”を、併せて行いました。小中学生の時に、鉛筆でシャカシャカして遊んだことがある方もいらっしゃるでしょう。

今回は、写し取る素材に、葉っぱとコインを使いました。葉っぱはワークショップ当日の午前中にスタッフが採ったのですが、お馴染みのモミジ、ハート形をしたカツラ、サクラ、メタセコイア、ササ、サツキ、クローバーなど、いろいろな形で且つ葉脈がきれいに出来るものを選びました。

ワークショップの参加者はその中から好きなものを選んで、鉛筆や色鉛筆、クレパス、色コンテを使って習字紙に写し取っていきます。素材(葉っぱ)が動かないようにしっかり保持するのがきれいに仕上げるコツですが、小さいお子さんだけでなく、大人の方も最初は少し苦労されたようでした。

それでも、葉の形が浮かんでくるとニコツとなって、だんだんコツをつかみ、挑戦が始まります。また、葉脈がくっきり浮き出ると、普段何気なく見ている葉っぱの精密さに、みなさんびっくりされます。1枚の葉っぱを多色で“レインボー葉っぱ”に仕上げた人や、1枚を放射状に配置して大輪の花のようにデザインした人もあり、私達スタッフに素敵な絵を見せてくださいました。



(前田雅子)

活動報告・活動予定

2024 年度（4 月～10 月）の活動報告

月	日（曜日）	場所	参加	内容
4 月	6 日（土）	交流室	5 名	定例会
	20 日（土）	会議室	5 名	勉強会「地域の神社奉納石造品を調べる」について米田実様講演
5 月	2 日（土）	会議室	5 名	勉強会「ひかり拓本」講師上梶英之様
	16 日（土）	交流室	5 名	定例会、交流会準備
6 月	1 日（土）	セミナー室	28 名	2024 年度第 1 回交流会
7 月	6 日（土）	交流室	8 名	定例会
	20 日（土）	交流室	8 名	定例会
8 月	3 日（土）	交流室	8 名	定例会「生き物供養碑調査」検討
	10 日（土）	交流室	8 名	定例会「生き物供養碑調査」検討
9 月	7 日（土）	交流室	8 名	定例会「生き物供養碑調査」検討
	21 日（土）	醒井養鱒場	8 名	供養碑見学会
10 月	5 日（土）	交流室	7 名	定例会、びわ博フェス 2024 内容検討
	19 日（土）	交流室	5 名	「生き物供養碑調査」調査案内・調査票印刷送付。掲示板 105 号検討

2024 年度 11 月～3 月の活動予定

月	日（曜日）	時	内 容	場 所
11 月	2 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	16 日（土）	10：00～16：30	びわ博 2024	交流室
	17 日（日）	10：00～16：30	びわ博 2024	実習室
12 月	4 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	15 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
1 月	4 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
	18 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室
2 月	1 日（土）	13：30～16：30	定例会	交流室

	15日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
3月	1日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室
	15日(土)	13:30~16:30	定例会	交流室

定例会は原則として、毎月第1、第3土曜日の13:30~16:30に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、お気軽にお越しください。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は琵琶湖博物フィールドレポーター（Email: freporter@biwahaku.jp）までお問い合わせください。

編集後記

今年度第1回調査は「生き物供養碑調査」です。滋賀県には約50基が公開されているそうです。これ以外にも身近で見つかるかもしれません。調査案内・調査票に従って多くの方の参加をお願いします。掲示板は今年度第1号です。発行回数が増えるように皆さんの投稿を期待しています。投稿は調査票の送付封筒に入れていただいても良いですし、メール（Email: freporter@biwahaku.jp）でも良いです。沢山の投稿お待ちしております。（担当 梶島昭紘）



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: freporter@biwahaku.jp

琵琶湖博物館公式 YouTube チャンネル「びわこのちからチャンネル」でフィールドレポーターの紹介動画が公開されました！！琵琶湖博物館では、フィールドレポーター（FR）など、博物館の活動をより広く知っていただくために、公式 YouTube チャンネルを解説し、動画発信を行っています。今回の動画は、いつも調査の企画や取りまとめをしてくださっている FR スタッフのみなさんが FR の面白さや魅力を語ってくれています。是非皆さんご覧ください！そして、チャンネル登録と高評価をよろしくお願いいたします。（学芸員 川瀬成吾）

「誰でも参加できる琵琶湖の地域調査員！滋賀県にある生き物供養を調査！」

⇒ <https://youtu.be/LJcH31zgIg>

